

世界遺産西湖：景観保護の課題と 遺産影響評価

黄 斌※

訳 松 本 圭 太

【摘要】 杭州西湖は浙江省における初めての世界文化遺産である。国外にまで聞こえた著名な風景湖泊である西湖は、都市中心に位置し、千年にわたる歴史変遷と文化的蓄積を経て、著名な文化景観となった。しかしながら、現代化や都市化の進展に伴い、保護と発展という矛盾が高まっている。本論は、西湖景観の特質から入って、その直面する保護課題を分析し、遺産影響の評価要素と関連する対策を提示する。

【キーワード】 西湖 景観保護 遺産評価

一、世界遺産西湖

（一）杭州城市の要

西湖の所在する城市、杭州は、中国東南沿岸に位置する浙江省の省都である。そして、中国史における悠久の文化的名城かつ、急速に発展する現代城市でもある。ここで生まれ育った先史文化である跨湖橋文化や良渚文化は、中国南方文明の発祥と発展を代表するものである。世に聞こえる銭塘江の潮流の景観や、画の如き風景を呈する西湖によって、杭州は、著名な風景観光城市となっている。（写真1-2）

西湖は、杭州城の西に位置することに由来する名前である。城市の発展に従って、西湖も城に囲まれるようになった。二千年以上の城市の発展に伴って、西湖の優美な風景と深遠な文化が日ごとに顕著になり、杭州城市を代表するものとなったのである。城市は湖により名を馳せ、湖は城市によって美しさを増した。西湖は、名城杭州の要としての名に恥じず、杭州城の象徴、ランドマーク的存在となったのであった。

「天下西湖三十六，就中最好是杭州（天下に西湖は三十六あるが、その中で最もよいのは杭州のそれである）」という作者不詳の詩句は、西湖に対する最高の賛美であり、西湖が、中国人の胸中においてしかるべき地位を占めていたことを示す。まさに、西湖は艶麗で、杭州城は輝かしい。また、城と湖が互いによりあい、優れた空模様をなしている。そして、湖光、山色は旅人を酔わせるのである。西湖は、国家風景名勝区に批准され、西湖三潭の形象は中国全土に流通する一元紙幣に印刷され

※ 浙江省文物考古研究所

ており、中国文化景観の象徴、代表となっている。そしてまた、杭州城市民の誇りでもある。(写真3, 写真4-13) 杭州には、中国第一の城市湿地公園である千年西溪があり、(西湖を併せた)「双西」がまさに名城杭州の「双眼」である。「双西」及び、杭州城を貫く人類の傑出した建造物である京杭大運河は、杭州を著名な「双」世界遺産城市(「双壁」あるいは「双眼」の遺産)にした¹⁾。(写真14-16)

西湖はまさにこのような環境的位置により、注目を集めているのである。

(二) 文化景観の特質

杭州西湖は、2010年世界遺産大会において世界遺産に登録され、多層の特性を持つ。

1. 二層属性：遺産特徴

西湖は、文化的景観により世界遺産となったが、自然、人文という双方の属性を有する。

(1) 自然西湖(万年に及ぶ地理的変遷)

杭州は本来杭州湾口にあり、河川を臨んで、海に近い。西湖は湾を経て徐々に潟湖に変化し、内湖になった。そして、城市の発展につれて、城西から、湖が城中の湖泊に変じた。これは西湖本体がまさに変化したものであり、地理的な変遷を証明するほか、城湖が互いに依る山水城市の構造をなすものである。(写真17)

(2) 人文西湖(千年におよぶ公共園林)

ここでは以下の二つが示されよう。まず一つは、城市山林への給水保障である。西湖は内湖となって、徐々に、杭州城市の重要な給水源であり、その保障となった。唐宋以来、城市が発展し、住民が増えるに従い、井戸の開削だけでは用水が保証できなくなった。そこで、湖水を城市に引き入れ、運河を開いて、河と湖を連結させたのは当然の成り行きであった。同時に、城西は湖を臨んでおり、広い水面は城市にとって理想の防御障壁である。城市のさらなる発展に従って、西湖の機能は、灌漑など城市への給水源から、湖光山色、人文史跡が相交わる城市山林を形成するものとなったのである。二つ目は景観湖泊から人文湖泊への変化である。唐末以降、杭州城市の地位が上昇し、「東南第一州」を経て、呉越国の首都、南宋の京城となった。至元年間には「この世で最も華麗で美しい天城」(イタリアの旅行家、マルコポーロによる)と言われ、最終的に「上には天堂あり、下流には蘇杭あり」と中国でいにしえより謳われてきたように、この世の天国とまで言われるようになった。1500年近くの歴史的変遷と文化的浸透を経て、文人の賞賛と官民による保護が、本来的には自然景観湖泊であった西湖を、徐々に変化させ、人文的息遣いの濃厚な城市景観の湖泊にしたのであった。さらにその1000年にわたる開放的属性が、それを広大な公共園林へとせしめたのである。(写真18)

2. 二種の性質：固定性と動性

数千年の変遷、発展を経て、西湖は固定性、動性という両特性を有している。

(1) 歴史文化(相対的固定性)

西湖およびその周辺、さらに西湖に囲まれて発展してきた城市の変遷によって、数千年の歴史文化の堆積がある。また、各種の文化遺産対象は、一定の時期においては、相対的に固定した形(時間的変遷の中のある段階において安定的に一定の状態に保たれている状況)で現れている。城市で累積された歴史文化は、一種の相対固定的な遺産といえる。(写真19)

1) 杭州では2ヶ所の遺産(文化遺産)が世界遺産に登録されている。「西湖文化景観」は2010年6月24日に、「中国大運河」は2014年6月22日に登録された。

(2) 社会発展（相対的動性）

西湖と城市の発展は社会的変遷を反映している。長期において、城市は栄光的発展、あるいは停滞後退した。そして遺産対象もあるものは壊され、あるものは残り、このような変化は止むことがなかった。社会、城市の発展、変遷は、世間万物の流転変化を反映しており、この種の不可逆的な動性を十分に体现しているのである。

3. 両種の視点：公園と遺産

西湖を扱うに当たっては、大小両視点がありうる。小さい視点は、単に城市公園としてであり、大きい視点は人類の共同遺産としてである。

(1) 地域社会における西湖（公園的属性）

杭州城市公園林としての西湖は、市民の西湖であり、国内には少ない大型の無料公園である。つまり、明確な公園的属性と、地域社会的属性を有しているといえよう²⁾。(写真20)

(2) 広域社会における西湖（遺産的属性）

世界遺産としての西湖は、鮮明な社会的属性を有しており、人々の嗜好に媚びて根拠なく飾られ、改変すべきものではない。必要なのは、政府による効果的管理であり、専門家による計画と公衆の熱心な参与なのである。このようにして、遺産的属性は保持され、杭州市民さらには人類世界の共有財産となるのである。(写真21)

二、景観保護における課題

(一) 全面的保護の必要

1. 完全範囲の保護

遺産保護の正しさ、完全性、継続性を考えると、西湖について全面的保護を行う必要がある。

(1) 限界（遺産境界）

西湖遺産の境界を着実に守ることは、西湖遺産保護の完全性にとって、主要な任務である。西湖世界遺産は中心区と緩和区を持ち、さらなる保護のためには、境界をコントロールすることの必要性を十分認識しておく必要があり、それを実行すべきである³⁾。(写真22-23)

(2) 形態（遺産表象）

遺産の完全性において、最も重要な表現は、その構造を全面保持、保存、保護することにある。6km²近くある西湖水面が中心部で、その中には島、道路、建築物、石碑、園芸が含まれている。湖岸から山地にいたる遺産の中心区および緩和区における構成要素は山林、道路、公園、建築、石碑等を含む。これらは均しく遺産的表象であり、維持されるべきである。

2. 文化内容の完全保護

世界遺産における「文化的景観」には、園林景観、田園景観、宗教文化景観の三種がある。これらは西湖世界遺産においても体现されている。西湖は公共園林であり、湖区十景、文化孤山などは園林景観を示し、西湖群山の龍井茶園、八卦飛田などは田園景観にあたる。また靈隠寺、天竺香市などは典型的な宗教文化景観である。従って、西湖遺産における豊富な文化内容は、それらに対する完全な保護を求めるものである。(写真24-27)

2) 2015年までに、中国には48の世界遺産があるが、「西湖文化景観」のみが永久無料公開である。

3) 国家文物局のサイト情報によると、世界遺産である西湖文化景観の面積は43.3km²であるが、そのうち批准された中心区の面積は33.2288km²である。

(1) 物質文化遺産（遺産内容の中心的構成）

文化遺産において最も鮮明な特徴は文化的、物質的属性であり、これらは、人類が創造した痕跡が明瞭なものである。西湖遺産内において、各級の文物保護単位は、重点的に保護が必要な対象である。西湖周辺には国家、省、市指定の文物保護単位の数が多く、杭州で最も早く全国重点文物保護単位となった、いわゆる「岳飛留白胡（岳飛、白胡（髭）を留む）」（岳廟、飛來峰造像、六和塔、白塔、胡慶余堂）がほぼこの中に含まれるが、何れも西湖周辺における文化遺産の重要な代表である。西湖及びその周辺における秀逸な歴史建築は、同様に注目、保護する価値がある。杭州の公的保護を受けている336ヶ所の歴史建築の大部分が西湖周辺にある。それらは、西湖の文化景観を体現しており、重要な構成要素である。西湖西側の山中に、僅かに残された自然村落もまた重要な風格建築であり、これらは景区において不可欠な人文的彩りを添えている。（写真28）

(2) 非物質文化遺産（遺産内容の解釈材料）

西湖歴史文化遺産では、有形、物質的形式が遺産区域に分布するほか、無形、非物質的形態も表現されている。西湖十景、新十景、新新十景、そして銭王祭、呉山廟会、銭江観潮、西湖船娘、龍井茶園などは、珍しく美しい伝説を有し、豊富で多彩な活動を伴っている。これらは、西湖景観内容の最良の解釈材料である。（写真29）

(3) 景観環境要素（遺産内容の環境的依存）

在西湖遺産区内では、碧湖井泉、山林草木、花草虫魚、村居景点、博物館群などが相互に依存し、景観区域の重要な結節点となっている。そして、様々なレベルで、豊かで悠久な空間を形成している。これらが西湖遺産内容で欠かせない環境依存を構成している。（写真30-31）

3. 完全な技術的保護

遺産保護では、技術的支援が必要であり、これは構想、方法、手段、材料などを含み、主には物質文化遺産に対してなされる。

(1) 文化財修復。文化財の保護と修復は、西湖遺産における保護の中心を占める。従って、遺産保護の理念と規則を基礎に、各々適した技術を用いて、文化財を修復、保護する必要がある。（写真32）

(2) 監視管理。遺産は本来的に脆弱なものであり、努めて保護する必要がある。また、遺産が依存、所在する環境についても、同様に重視する必要がある。遺産そのものやその環境に対する安全管理は、長期、効果的にコントロールされねばならない。従って、監視管理は長期にわたり、それによって、遺産とその環境が良好に保持できるのである。（写真33）

(二) 動的保護の必要性

1. 保護と発展の矛盾

都市化の推進に伴い、杭州城市の建設は飛躍的に発展しており、西湖やその周辺の建設もまた影響を受けている。また、都市開発は、遺産価値における景観要素へ重大な影響を及ぼした⁴⁾。世界遺産委員会の要項に照らせば、遺産影響は、持続的な評価を与えるものである。

(1) 遺産本体の保護。遺産として主体をなすものに対する保護には、多くの影響が存在する。従って、本体の保護についての評価は、必然的に強化されるべきである。

4) 『杭州統計年鑑』を見ても、杭州城市は急速に発展している。1996年から現在までに、市区は5区から9区に拡張され、建成区は551km²で、そのうち主城区は、5区

から6区へ拡張した。建成区は80km²に満たなかったものが、327km²に拡張している。城市建设が西湖遺産影響へ与える影響は明らかに激化している。

(2) 遺産環境の維持。遺産が存在する、あるいはそれに付属する環境もまた、都市化、現代化の影響を受けており、現実的に脅威となっている。従って、環境影響についてコントロールを強化することが重要であり、これは動的な課題である。(写真34)

2. 保護管理の関連課題

世界遺産に登録されたことは、始まりに過ぎず、ここから長い効果的な保護管理が根本である。保護管理の過程において、多くの方面、多レベルの深い探究と実践応用が必要である。

(1) 遺産管理の理論的研究。まず、政策を完全なものにする必要がある。良好な政策研究とその実施は、遺産保護管理の基本をなす土台である。第二に、完備された組織機構が必要である。有効な管理のためには、完全な組織的保障とその人員が必要である。その三に、理論的探究とその実践を十分なものとすることで、管理実践を科学的、効率的なものにする。これらについては、目下明らかに不足しており、強め、保持していくべきである⁵⁾。

(2) 遺産本体の保護修復。まず、日常的な保護と修復は、未だ普遍的には重視されていない。日常の保護と修復の軽視は、問題の発見が遅れることにつながり、後になって増大するリスクを抱えることになる。他では、大規模な修理に関しては、理念把握について明らかな偏差があり、あるべき技術的応用とその試みが不足している。

(3) 遺産環境形態のコントロール。都市が急速に発展する今日、城区に伴ってきた西湖では、都市発展が遺産に引き起こす潜在的脅威が、遺産区の保護と中心城区の発展の相関において明らかとなっている。遺産区の内部では、人為的活動は絶え間なく激化しており、遺産に対しても、影響は増大しつつある。従って、遺産環境の保持が、保護の重要な課題となっているのである。(写真35-37)

三、遺産影響評価

(一) 評価の対象と内容

1. 遺産対象の影響評価

遺産対象に対する影響評価は、主にその本体と環境が受ける影響に対する評価を含んでいる。

(1) 遺産本体の保護。遺産本体や遺産の真実性の保護は、第一に必要である。従って、遺産の日常影響評価では、遺産本体が最も重要なものである。

(2) 遺産本体の状態の厳格な保持。遺産の完全な保持は、その真実性を基礎とした場合、さらに必要なものである。また、その保護利用の継続性もその保護過程において体现される。従って、その全体状態の維持は、真実性、完全性を体现する重要な保証なのである。

2. 遺産環境影響の評価

(1) ミクロな環境とマクロな環境。遺産のミクロな環境とは、主にその周辺の小環境を指し、その改善は、遺産保護において直接反映される。遺産にはそれが存在するマクロな環境があり、西湖遺産は、城市と一体であるがゆえに、城市の構造や様相が、遺産とその保護地区に直接の利害関係を持つ。そこで、不当な建設を制約し、環境様相を維持することで、西湖遺産を正しく保護できるのであ

5) 2010年7月13日、西湖が世界遺産に登録されてから1ヶ月以内に、杭州市は専門的に「西湖遺産監視管理センター」を設立し、西湖遺産の保護を強化した。2014年10月14日、浙江省機構編制委員会は、浙江省文物

考古研究所において「浙江省世界文化遺産監視センター」を設置し、省全体の世界文化遺産の監視管理を負うものとした。

る⁶⁾。(写真38)

(2) 物質環境と雰囲気。遺産は、有形物質の環境要素において鮮明であるが、無形的環境の浸透や影響も受ける。従って、評価では、物質環境の保持と無形環境の維持を考慮する必要がある。

(二) 評価プログラムと方法

1. 評価プログラム

(1) 戦略：問題を発見し、焦点を絞ることは、遺産評価プログラムの起点である。遺産やその環境に存在する各種問題を随時発見し、その要因を分析、焦点を絞ることによってのみ、有効な手だてを打つことができ、遺産保護の戦略を立てることが可能なのである。

(2) 方法：合理的な評価体系を規格、制定することは特に重要である。遺産内容の合理的分類や対応評価は、より細分化することで、より対応するものになる。それによって、遺産影響評価の内容は、空洞化をまぬがれ、全面性や適応性を有することができるのである。

(3) 結論：妥当な結論の提示。評価は適切な結論でなければならず、大小の類型によって、科学的に帰納させ、合理的に取捨選択して正確な結論を得る必要がある。そこでどのように、何から実行するかを知り、戦略を立てることになるのだ。

(4) フィードバック：遺産は公共に属し、評価影響は管理部門、専門の団体や市民に随時フィードバックさせる必要がある。意見を聞き取り、有益な意見を広く集めることで、評価は改良されていくものである。

2. 評価方法

遺産内容は豊富であり、遺産環境は複雑である。遺産変化もまた多くが潜在的なものである。従って、影響評価の方法は、融通の利くものでないといけない。

(1) 静動評価と動態評価の結合。静動評価は、より理想的な方法と相対的、主観的体系によって決められる体系である。従って、動態を追って随時修正し、評価を完全にする必要がある。

(2) 段階評価と持続評価の結合。段階性評価が反映するのは、西湖遺産における何らかの特定の段階内における保護状況である。それは段階に応じた保護の方策を決める参考になり、遺産の継続的特性は、遺産に対する持続評価を必要とする。

(3) 全面的評価と特定評価の結合。特定の一つ、一時期の遺産影響の評価では全てを網羅することは出来ない。これは、評価認識、遺産変化や形勢発展が決定するところである。従って、完全な評価体系、評価内容の深化、全面的評価の他、特定時期に主に存在する問題、そして急を要する特定評価を結合し、難題を解決する必要がある。

(三) 評価程度と必要

西湖遺産影響に対する評価の目的は、遺産の永続的保護と利用にある。従って、適用性と持続性を堅持する必要がある。

1. 適用性における必要

(1) 目的の正確性。遺産影響評価は目的の正確性によってはじめて、影響評価を遺産保護の規範規則とその要求に合わせることが出来る。そうすれば、現状の束縛に妥協せず、保護の根本的目的か

6) 2007年2月16日、国務院は正式に「杭州市城市総体
規画」(2001-2020)(国函2007-19号)を批准した。
その中で、杭州歴史文化名城保護に対して、コントロー

ルの必要性を提示した。また、「杭州市歴史文化名城保
護規画」は2003年に施行されているが、その都度改訂、
改善されている。

ら逸脱することはない。

(2) 目標の明確性。明確な目標を持つことで、よりの射た評価や、その実際、応用的価値が得られる。

(3) 方法的合理性。基本となる世界遺産評価方法に従うべきである。そして、実際の遺産保存状況を併せ、合理的方法を採れば、評価の結論も合理的なものとなる。

(4) 結果の有効性。遺産影響評価は、段階を設定し、絶えず修正、検証しなければならない。そうすれば、結論が科学的なものとなり、措置も有効となる。

2. 持続性における必要

(1) 正確性。遺産影響評価が、その評価技術の方法の正確性に留意することで、基本的な規範要求を逸脱せずに済む。

(2) 適用性。西湖遺産の独特な価値、特定の問題などを併せて、影響評価を行うことで、正確での射た結論、措置に達することが出来る。それが、西湖世界遺産の保護を効果的に促すのである。

(3) サイクル性。初歩の影響評価から改良を重ね、サイクル的评价を行う。この過程を通じて、評価体系を益々健全なものとし、評価内容を不断に完全なものとしていくのである。

(4) 長期性。遺産の特殊性質によって、西湖遺産は永久の生命とみなせる。正確な認識によって はじめて、遺産影響の関連評価を情らずに堅持できるのである。そして、西湖世界遺産の永久的保護利用を正しく行うことが出来る。

(四) その他の対策と提案

各世界遺産の特殊性を鑑みて、本論では西湖世界遺産の影響評価について提案を行った。各項目の研究、管理における問題、総合的問題、そして人々と社会の広い参与を基礎に、評価成果の総括、修正をおこない、改善していく必要がある。

1. 研究評価

(1) 系統性：西湖に対する遺産影響評価の複雑な内容を鑑みると、遺産保護の専門研究機構が評価に広く参加するよう提案することは、影響評価の研究体系の完全性と、内容の充実性を保証する。

(2) 全面性：西湖遺産の三種の景観、六大要素と多層的特徴は学際的研究を必要とする。そして、問題の根源を全面的に探究し、解決していくことによってのみ、西湖遺産の全面保護が正しく促進される。

2. 監視管理

(1) 照準性（基準）：西湖世界遺産の日常監視管理を強化し、照準を合わせて問題を発見、解決する。具体的な小問題を先ず解決したあと、普遍的大問題を解いていくことこそ、実行可能で必要なプロセスである。

(2) 長期性：長期にわたる監視管理の維持、メカニズの改善、監視範囲の拡大、さらにその指標内容の深化は、西湖遺産の影響評価を助けるものとなる。

3. 社会的参加

(1) 公共性：西湖は公共園林であり、世界遺産保護理念を普及すべく、「コミュニティ意識」を打ち立てた。西湖は世界遺産という人類共同の財産であり、全体的「社会属性」を持つ。従って、各社会、階層の総体参加によって、西湖世界遺産の社会性の認識、公共的影響がさらに増すのである。

(2) 動態性：西湖は開放的遺産であり、都市と湖が一体になった特殊な構造である。それが社会発展の比較的大きな影響を西湖へ必然的に与える。したがって、西湖遺産への影響評価は、遺産本体

の保護環境の変化影響に加え、杭州城の科学発展における、環境変化の動態性、社会進化の動態性を科学的、合理的に、取り入れるべきである。西湖世界遺産を保護するには、動態性が絶えず要求されるのである。

西湖は数千年の変遷を経ており、世界遺産としては、厚く堆積した歴史文化的経歴によって認められている。その中で最大の特徴は、文化的堆積とその動態変遷にあり、西湖遺産に影響する各種要素は、その動態変化にある。従って、本論では、西湖への遺産影響評価は、理性的、全面的、動態的、持続的理念と行動の上にまさに体现されると考えたのである。



图1 杭州西湖1



图2 杭州西湖2



图3 壹元人民币纸币图案



图4 西湖十景-断桥残雪

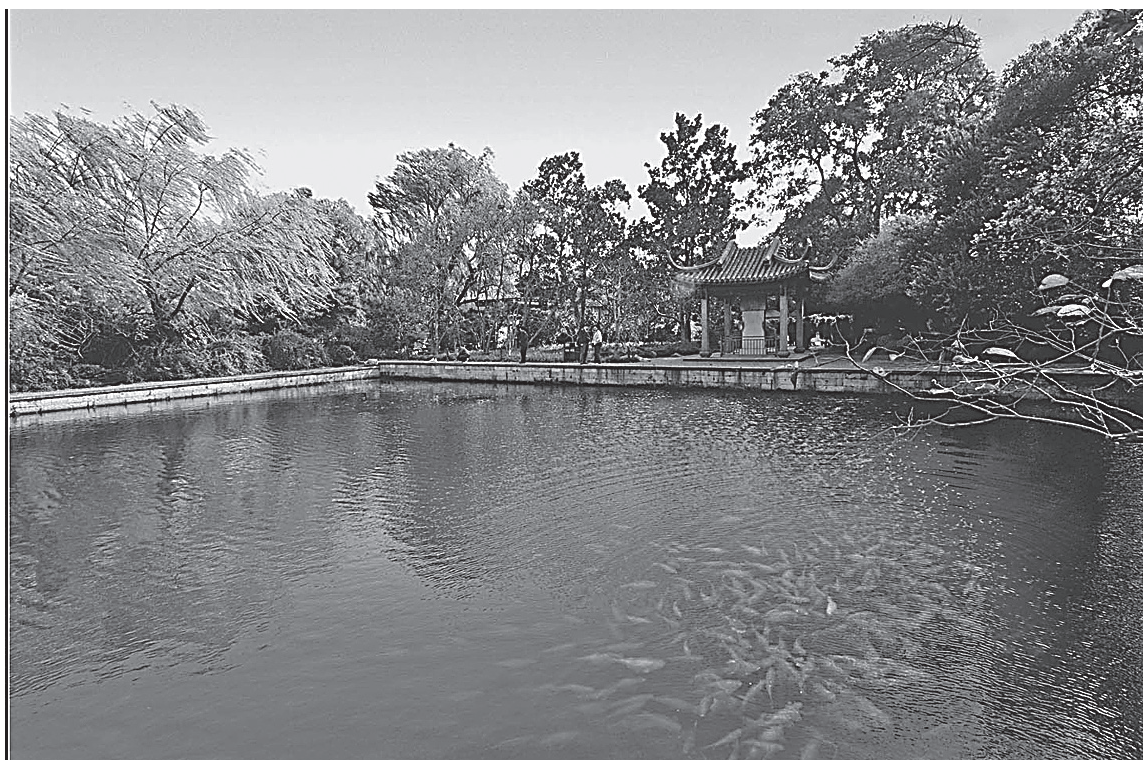


图5 西湖十景-花港觀魚



图6 西湖十景-雷峰夕照



图7 西湖十景-柳浪聞鶯



图8 西湖十景-南屏晚鐘



图9 西湖十景-平湖秋月



图10 西湖十景-曲院風荷



图11 西湖十景-三潭印月



图12 西湖十景-双峰插雲

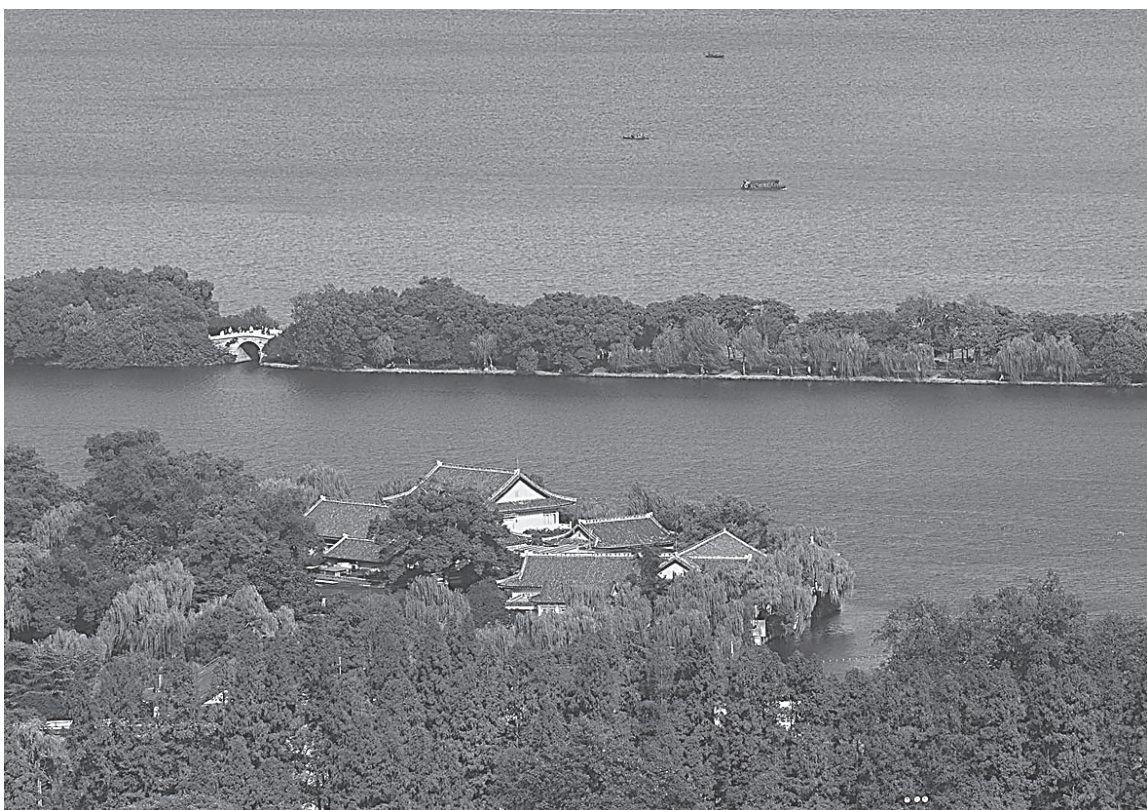


图13 西湖十景-蘇堤春曉



图14 西湖世界遺產標識



图15 中国大運河-杭州段



図16 杭州西溪湿地



図17 杭州市区と西湖影像



图18 夕陽と西湖游人



图19 景区古迹-岳廟



図20 湖辺で休憩する市民



図21 柳浪聞鶯における「世界文化遺産標識」



图22 西湖遗产区画1



图23 西湖遗产区画2



图24 西湖湖光山色

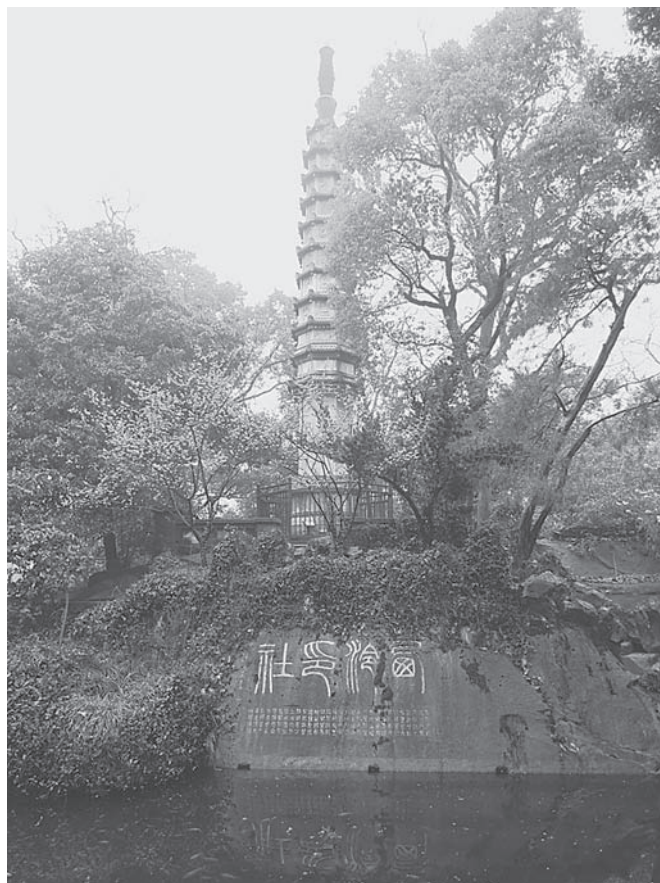


图25 西湖孤山-西泠印社

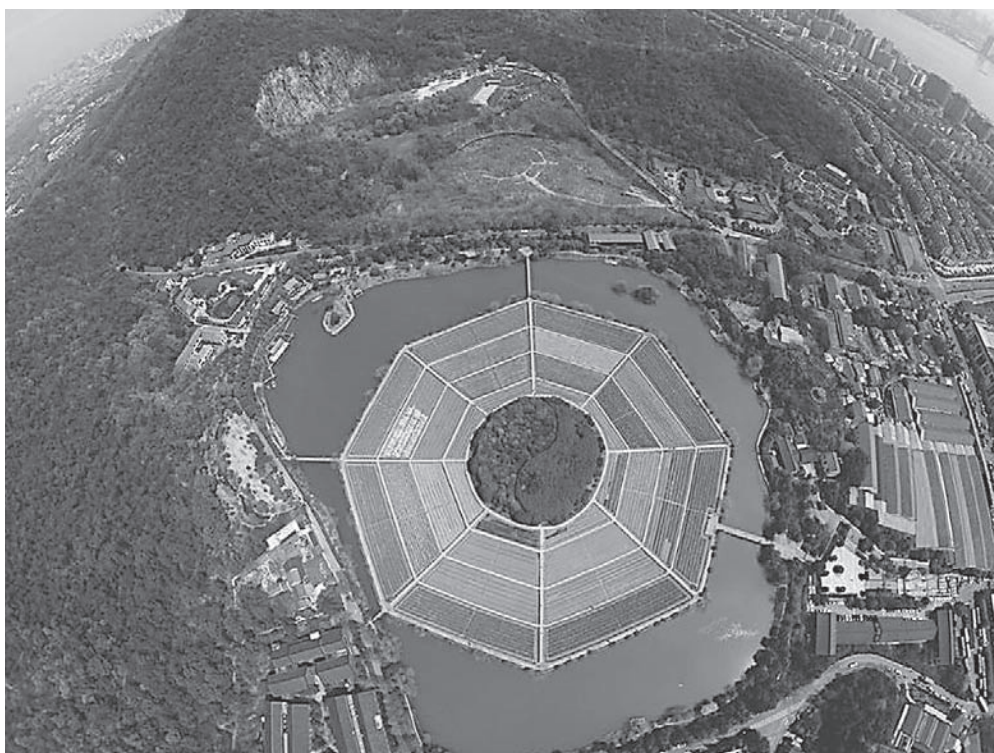


图26 西湖-八卦田



图27 西湖-靈隱寺



图28 西湖孤山-清行宮遺跡



图29 钱王祠-元宵钱王祭



图30 西湖博物館

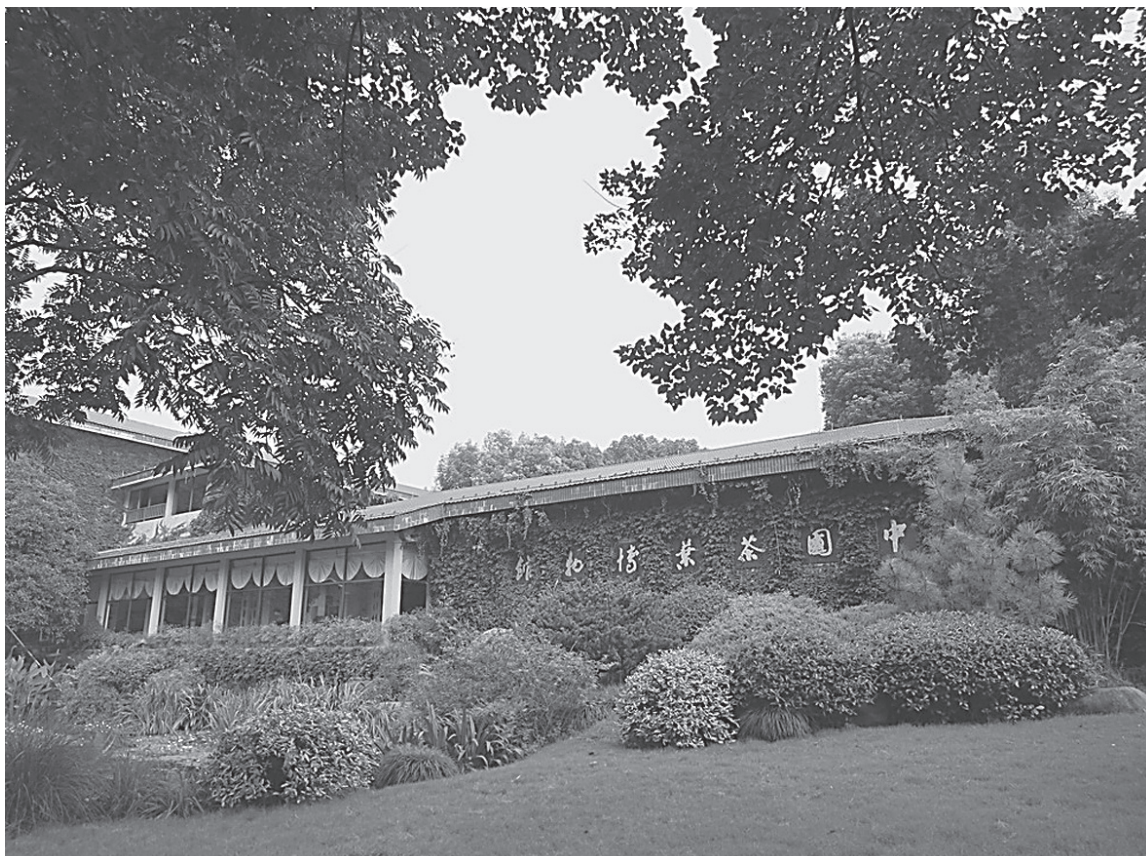


图31 景区建设-中国茶葉博物馆



图32 景区擁護-平湖秋月碑亭

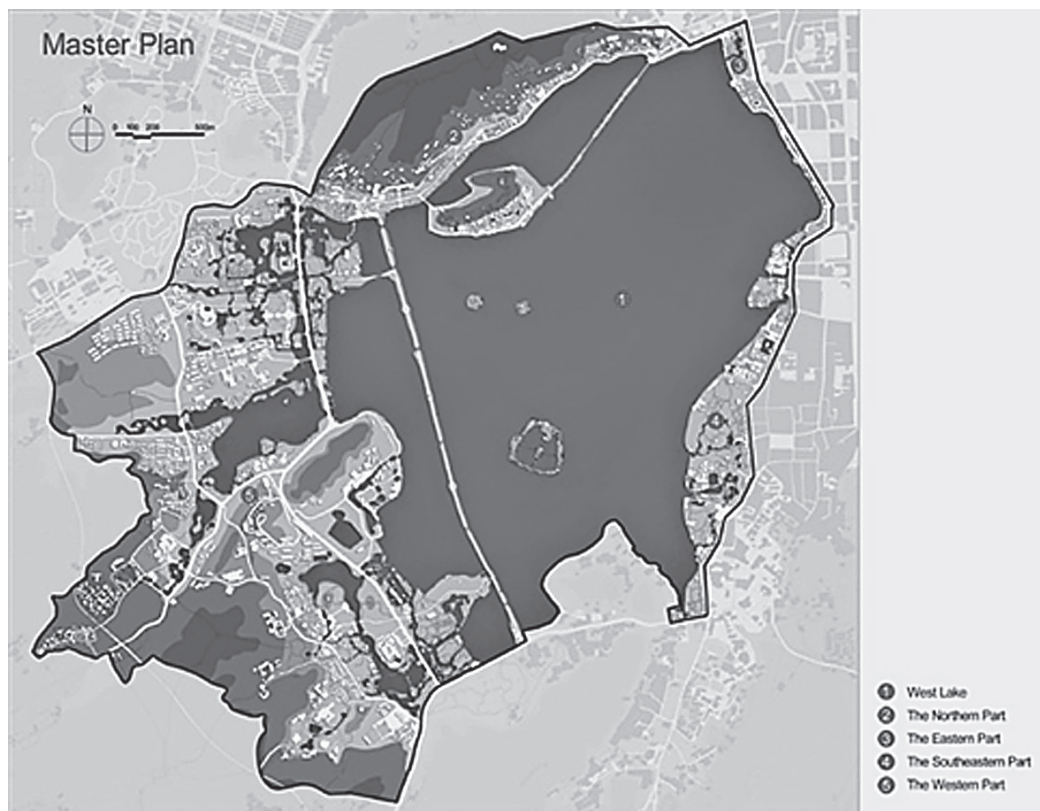


图33 西湖核心景区

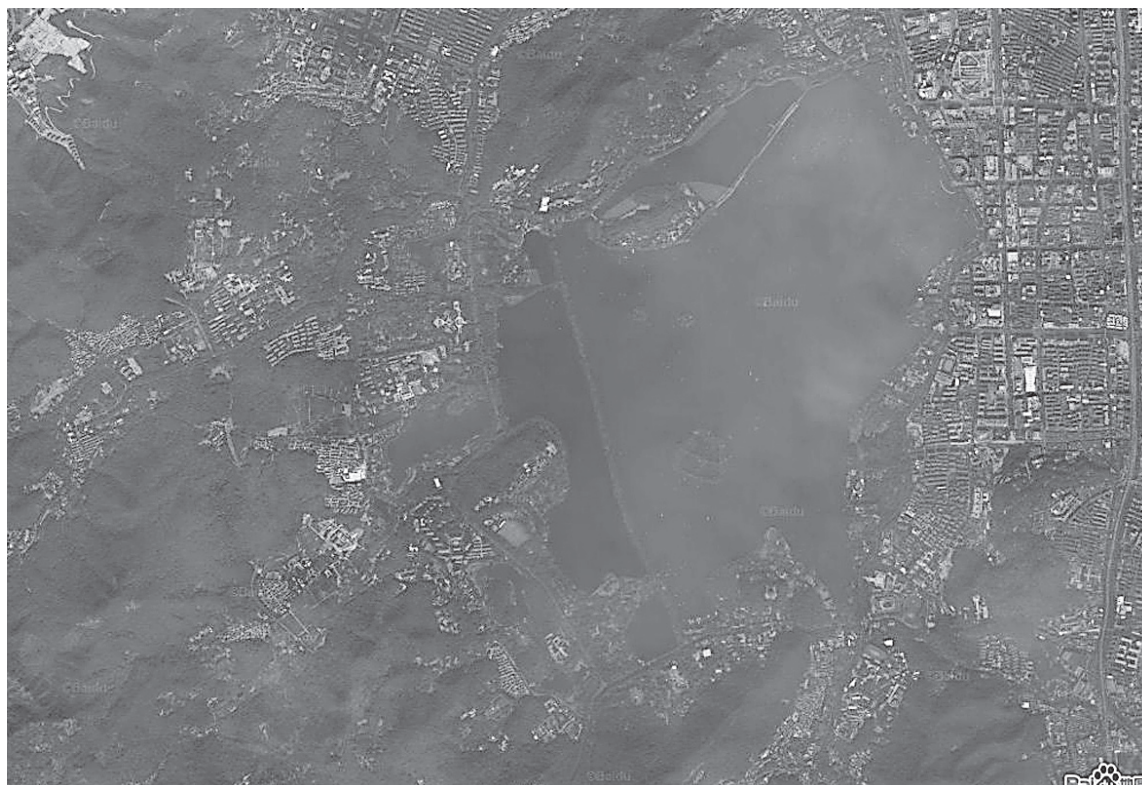


图34 西湖环湖建设



図35 人あふれる西湖



図36 西湖断桥と城区の高層ビル



図37 湖と城市夜景



図38 西湖馬拉松

世界遗产西湖：景观保护课题与遗产影响评估

黄 斌

【摘要】杭州西湖是浙江省首个世界文化遗产项目。作为一处闻名中外的风景湖泊，西湖地处城市中心，经过千年历史变迁与深厚文化积淀，成为著名的文化景观。随着现代化与城市化的推进，保护与发展的矛盾日益凸显。本文从西湖景观的特质入手，分析其面临的保护难题，进而提出遗产影响评估要素与相关对策。

【关键词】西湖 景观保护 遗产评估

一、世界遗产西湖

（一）杭州城市之眼

西湖所在的城市杭州是中国东南沿海浙江省的省会，是中国历史悠久的文化名城和高速发展的现代化城市。孕育在此的史前文化跨湖桥文化和良渚文化，是中国南方文明发祥和发展的代表。举世闻名的钱江潮景观和风景如画的景观湖泊西湖，使杭州成为著名的风景旅游城市。（照片1-2：西湖1、2）

西湖因在杭城之西，故名。随着城市的发展，西湖已然围入城中。两千多年来，随着城市的发展，西湖的优美景色和深厚文化日益凸显，成为杭州城市的代表。城因湖而闻名，湖因城而益美。西湖，当之无愧地成为名城杭州的城市之眼，成为杭城的形象与标志。

天下西湖三十六，就中最好是杭州，无名氏的诗句是对西湖的最高赞美，也是西湖地位在国人心目中的应有位置。西湖妖娆，杭城锦绣。城湖相依，绝色天成。湖光山色，游人尽醉。西湖成为首批国家风景名胜區，西湖三潭的形象印在通行全国的壹元人民币纸币上，成为中国文化与景观的象征和代表，也成为杭城人民的骄傲。（照片3，1元纸币；照片4-13，西湖十景10幅）

杭州还拥有国家首个城市湿地公园——千年西溪，双西诚为名城杭州的双眼。双西以及穿城而过的人类杰出工程——京杭大运河，使得杭州成为著名的双世界遗产城市（号为遗产双壁，又成双眼）。（注释1）（照片14，西湖世界遗产标志；照片15，大运河；照片16，西溪湿地）

西湖，正是因为处在这样的环境中，备受世人瞩目。

（二）文化景观特质

杭州西湖在2010年由世界遗产大会公布列入世界遗产名录，它具有多重特性。

1. 双重属性：遗产特性

西湖作为文化景观类世界遗产，具有自然与人文的双重属性。

(1)自然西湖:万年地理变迁。杭州原在杭州湾口,临江傍海,西湖则由海湾逐渐淤变为潟湖,又成内湖,随着城市发展,又从城西一湖变为城中湖泊。正是西湖本身的变化,既见证了地理的变迁,也造就了杭州城湖相依的山水城市格局。(照片17,杭州及西湖影像地图)

(2)人文西湖:千年公共园林。表现在:一是由供水保障到城市山林。西湖成为内湖之后,逐渐成为杭州城市重要的供水来源与保障。唐宋以来,城市发展,居民渐增,开凿井泉不足以保障用水,由此,引湖水入城市,开运河沟通江湖,势成必然。同时,城西临湖,广袤水面也是城市理想的防守屏障。随着城市的进一步发展,西湖的功能由早期的引水灌溉等城市供水保障源变为湖光山色、人文史迹交相融汇的城市山林。二是由景观湖泊成为人文湖泊。唐末以降,杭州城市地位上升,由东南第一州,至吴越国首府、南宋京城,至元代为世上最华贵美丽之天城(意大利旅行家马可·波罗赞语),最终成为上有天堂、下游苏杭(中国民间习称)的人间天堂。期间经历的近1500年间,历史的变迁与文化的浸润,文人的颂咏与官民的守护,使得原为自然景观湖泊的西湖逐渐演变成人文气息浓厚的城市景观湖泊。而其持续千年的开放属性,使其成为巨型的公共园林。(照片18,西湖游人)

2. 两种形态:凝固与动态

经历了数千年的变迁发展,西湖具有凝固与动态两种特性。

(1)历史文化:相对的固态。西湖之中、西湖近侧、西湖周边,环绕着西湖发展起来的城市变迁,使得数千年历史文化得以积淀,而留存的各类文化遗产对象在一定时期也都是以相对固态的形式展现在世人面前。城市积累的历史文化成为一种相对的固态遗产。(照片19,岳庙)

(2)社会发展:相对的动态。西湖和城市的发展,反映着社会的变迁。期间,城市或荣耀发展或停滞倒退,遗产对象或毁或存,同样更迭不休。社会、城市的发展、变迁,反映着世间万物的变化轮回,充分体现着这种不可逆转的相对动态。

3. 两类视野:公园与遗产

看待西湖,可以有大小两种视野:小则仅是城市公园而已,大则却是人类共同遗产。

(1)社区西湖:公园属性。作为杭州城市公共园林的西湖,就是百姓的西湖,一处国内少见的大型免费公园。所以,它具有鲜明的公园属性和社区归属。(注释2)(照片20,湖边休闲的市民)

(2)社会西湖:遗产属性。作为世界遗产的西湖,则具有鲜明的社会属性,它不再是由着人们的喜好而作随意的打扮和改变了,它需要的是政府的有效管理、专家的规划引导和公众的热情参与,唯此善待,方可保持其遗产属性,成为杭州市民、更是人类世界的共同财富。(照片21,柳浪闻莺的世界文化遗产标志)

二、 景观保护课题

(一) 全面保护的必要

1. 完整的界域保护

遗产保护的真实性、完整性、延续性原则,要求我们对西湖进行全面的保护。

(1)界限:遗产边界。牢牢守住西湖遗产的边界,是保护西湖遗产完整性的首要任务。西湖世界遗产设有核心区和缓冲区,为了更好的保护,必须充分认识界划控制的必要性,真正予以落实。(注释3)(照片22-23,遗产区划)

(2)形态:遗产表象。遗产完整性的最重要的表现在于全面保持、保存、保护其格局组成。西湖水面近6平方公里,这是核心和灵魂,内中水面、岛屿、道路、建筑、构筑,乃至碑刻题铭、草木园艺,无不包括。近周湖岸及至山地,凡遗产核心区及缓冲区内的格局组成要素,包括山林、道路、公园、建

筑、石刻等，均属遗产表象，均须维持。

2. 完全的内涵保护

在世界遗产中，文化景观有三类划分：园林景观、田园景观、宗教文化景观，这在西湖世界遗产中均有体现：西湖的公共园林，如湖区十景、文化孤山等均属园林景观，西湖群山的龙井茶园、八卦飞田等属于田园景观，而灵隐古刹、天竺香市等又是典型的宗教文化景观。由此，西湖遗产中丰富的文化内涵，就要求我们实施完整或者说是完全的保护。（照片24-，湖光山色；照片25，孤山西泠印社；照片26，八卦田，照片27，灵隐寺）

（1）物质文化遗产：遗产内涵的核心构成。文化遗产最鲜明的特点是文化的、物质的属性，亦即人类创造印记明显。在西湖遗产中，各级文物保护单位就属于需要重点保护的对象。西湖周边，国家级、省级、市级文保单位数量众多，杭州最早列为全国重点文物保护单位的“岳飞”“留”“白胡”（岳庙、飞来峰造像、六和塔、白塔、胡庆余堂）几乎囊括于此，是西湖文化遗产的重要代表。在西湖及其周边，优秀历史建筑同样值得关注与保护。杭州已公保护的336处历史建筑大多在西湖周边，是西湖文化景观的重要组成与体现。即便是在西湖西侧的群山中，仅存的几处自然村落也是重要的风貌建筑，它们是景区不可或缺的人文点缀。（照片28，孤山清行宫遗址）

（2）非物质文化遗产：遗产内涵的诠释材料。西湖的历史文化遗产除了有有形的、物质的形式散布于遗产区域，还以无形的、非物质的形态表现出来，西湖十景、新十景、新新十景，以及钱王祭、吴山庙会、钱江观潮乃至西湖船娘、龙井茶园等均有神奇、美丽的传说，伴生丰富多彩的活动，是西湖文化景观内涵的极好诠释材料。（照片29，钱王祭）

（3）景观环境要素：遗产内涵的环境依托。在西湖遗产区内，碧湖井泉、山林草木、花草虫鱼，村居景点、博物馆群等，互为依存，成为景观区域重要节点，也形成层次丰富、悠远深邃的空间视廊。这些，构成了西湖遗产内涵必不可少的环境衬托。（照片30，西湖博物馆，照片31，中国茶叶博物馆）

3. 完善的技术保护

保护遗产需要技术支撑，包括思路、方法、手段、材料等，主要针对有形的物质文化遗产对象。

（1）文物维修。做好文物对象的保护和维修，就是抓住了西湖遗产的核心保护要素。因此，需要在遵守遗产保护理念和规则的基础上，运用适宜的技术维修、保护文物对象。（照片32，平湖秋月碑亭）

（2）监测管理。遗产本已脆弱，需要精心保护，而其依附或所处的环境，同样需要重视。对遗产本体及其环境的安全管理，需要长期的有效管控。因此，监测管理就需要长期实施，遗产及其生存环境才能良好保持。（照片33，遗产核心区）

（二）动态保护的需要

1. 保护与发展的矛盾

随着城市化推进，杭州城市建设飞速发展，西湖及其周边的建设也因此受到影响。因城市开发，遗产价值受到景观因素的重大影响。（注释4）按照世界遗产委员会要求，遗产影响应予以及时且持续的评估。

（1）遗产点的保护。作为遗产主体的本体，其保护存在诸多影响。因此，保护本体势必先要加强相应评估。

（2）遗产环境的维持。作为遗产生存或依附的环境，同样受到城市化、现代化影响，存在现实的威胁。因此，对环境影响加强监控，成为重要的、动态的课题。（照片34，西湖环湖建设影像图）

2. 保护管理的相关课题

对于世界遗产，申报进入名录只是工作起始而已，长久有效的保护管理才是根本。因此，在保护管理过程中，需要进行多方面、多层次的深化探索与实践应用。

（1）遗产管理的理论研究。其一，完善政策配套，因为良好政策的研究与实施是遗产保护管理最为

基本的保障基础；其二，健全机制机构，因为有效的管理，需要完善的机制保障与机构人员；其三，加强理论探索，实践需要理论指引，而保护利用的理论探索与实践愈发充分，则保护管理的实践操作更显科学、更有效率。在这些方面，目前显然不足，需要加强且长效坚持。（注释5）

（2）遗产本体的保护维修。一方面，日常保养维护普遍未受重视，忽视日常保养维护，势必难于及时发现隐患与问题，积累后期投入增大的风险；另一方面，对于重点工程的修缮技术，明显存在理念把握的偏差，缺少应有的技术应用与检验。

（3）遗产环境的风貌控制。在城市飞速发展的今天，与城区相依相伴的西湖，在遗产区保护控制与中心城区发展的互动关系上，明显表现为城市发展对遗产造成潜在威胁。而在遗产区内部，人为活动也不断加剧，对遗产同样造成日益增大的影响，为此，遗产环境的维持成为保护的重要课题。（照片35，西湖人满为患；图36，西湖断桥与城区高楼；照片37，西湖与城市夜景）

三、 遗产影响评估

（一）评估对象与内容

1. 遗产对象影响评估

针对遗产对象的影响评估主要包括本体及其环境遭受影响的评估。

（1）首要保护本体安全。本体为遗产主体，而遗产的真实性保护则是第一要务。因此，遗产日常影响评估当以遗产本体为首要。

（2）严格维持本体面貌。遗产的完整性保持是在真实性基础上的进一步要求，而其保护利用的延续性则是在对其的保育过程中得到体现。因此，维持其整体面貌，是真实性、完整性体现的重要保障。

2. 遗产环境影响评估

（1）微观环境与宏观环境。遗产微观环境主要指其周边小环境，改善其微观环境为保护遗产最直接反映。遗产还有其生存的宏观环境，西湖遗产因其与城相依，城湖一体，因此，城市建设格局、风貌对遗产及其保护区有直接利害关系，制约不当建设，维持环境风貌，西湖遗产方能得以真正保护。（注释6）（照片38，西湖马拉松）

（2）物质环境与无形氛围。遗产由有形物质环境组成、烘托，也有无形环境浸润、影响，因此，评估必须考虑物质环境的保持和无形环境的维持。

（二）评估程序与方式

1. 评估程序

（1）策略：发现问题、汇集焦点，是遗产评估程序的起点，唯有及时发现遗产及其环境存在的各种问题，分析其成因，汇集、筛选焦点问题，才能有的放矢，制定遗产保护策略。

（2）方法：规划、制定合理的评估体系尤为重要。应将遗产内涵合理分类、对应评估，越是细化、越是对应，才能避免遗产影响评估的内容缺失，从而更具全面性和针对性。

（3）结论：提出有效的结论。评估必须有相应的结论，由小类、大类、总类，进行科学归纳、合理取舍，得出正确结论，才能知道如何下手、从何下手，进行策略制定。

（4）反馈：遗产属于公众，影响评估必须及时反馈于管理部门、专业团队和普通民众，听取意见，集思广益，进行改进和完善。

2. 评估方式

遗产内涵是丰富的，遗产环境是复杂的，遗产变化也多是潜在的，因此，影响评估的方式必须灵活。

（1）静态评估与动态评估结合。静态评估是以较为理想方式、相对主观制定的体系，因此，需要动

态跟进、实时修订，完善评估。

（2）阶段评估与持续评估结合。阶段性评估反映的是西湖遗产在某特定阶段内的保护状况，是阶段性保护决策参考依据，而遗产的延续性特点，必然要求对遗产进行持续的评估。

（3）全面评估与专题评估结合。特定的某一次、或某一时期的遗产影响评估，不可能包罗一切，这是评估认识、遗产变化及形势发展所决定的。因此，既有必要完善评估体系、深化评估内容，以臻全面评估，也有必要结合特定时期主要存在问题或形势急迫要求，进行专题评估，解决专项难题。

（三）评估程度与要求

对西湖遗产影响评估的目的在于指导遗产的持久保护与永续利用，因此必须坚持适用性及持续性要求。

1. 适用性要求

（1）目的正确。遗产影响评估只有目的明确，才能使影响评估符合遗产保护的规范准则与相关要求，而不迁就于现状束缚，偏离保护的根本目的。

（2）目标明确。有明确的目标，才有更具针对性的评估，才可能有实际应用价值。

（3）方法合理。应遵循基本的世界遗产评估方法，结合实际的遗产保存状况，采取合理方法，才能使评估结论合理。

（4）结果有效。遗产影响评估须设定阶段进行不断修正、检验，才能使结论科学、措施有效。

2. 持续性要求

（1）正确性。遗产影响评估只有注重评估技术方法的正确，才不致偏离基本规范要求。

（2）适用性。只有结合西湖遗产的独特价值、特殊问题等进行影响评估，才能导致正确的、适用的结论、措施，才更有效地促进西湖世界遗产保护。

（3）周期性。以初步的影响评估起步，不断完善，进行周期性评估，通过此过程，不断健全评估体系、完善评估内容。

（4）长期性。遗产的特殊属性要求我们视西湖遗产为永久生命，有正确的认识，才会坚持不懈地进行遗产影响关联评估，才有可能真正做到对西湖世界遗产的永久保护利用。

（四）其他对策建议

鉴于每一处世界遗产的特殊性，本文建议对于西湖世界遗产的影响评估，应立足于各项研究，在监测管理中发现問題、总结问题以及在广泛的群众参与、社会参与的基础上，进行评估成果的总括、修正与完善。

1. 研究评估

（1）系统性：鉴于西湖遗产影响评估的复杂内涵，建议相关的遗产保护专业研究机构能广泛参与评估，保证影响评估的研究体系完整、内容充实。

（2）全面性：西湖遗产的三类景观、六大要素及多重特性，使得多学科、跨行业研究势成必然，全面探究问题根源，谋求解决之道，才能真正促成对西湖遗产的全面保护。

2. 监测管理

（1）针对性：加强对西湖世界遗产的日常监测管理，针对性地发现问题、解决问题，先解决适用性小问题，后拓展谋解普遍性大问题，应是可行之法、必经途径。

（2）长效性：长期坚持监测管理，并不断完善机制，不断扩大监测覆盖面，不断深化监测指标内容，有助于对西湖遗产的影响评估。

3. 社会参与

（1）全民性：西湖是公共园林，须广泛普及世界遗产保护理念，树立社区意识，西湖又是世界遗产，

是人类共同财富，具有全面的社会属性，因此，社会各界、各阶层的全面参与，会使西湖世界遗产的社会性认识、公众性影响得到更大提升。

（2）动态性：西湖是开放的遗产，城湖一体的特殊格局，势必使其受到社会发展的较大影响，因此，对西湖遗产的影响评估，除应加大大本体保护环境的变化影响外，更应科学、合理地纳入杭州城市的科学发展之中，环境变化的动态性，社会进步的动态性，对我们保护西湖世界遗产，时刻都在提出动态性的要求。

西湖经历数千年变迁而来，西湖世界遗产因积淀深厚历史文化底蕴而获得肯定，其中最大的特质在于文化积淀与动态变迁，影响西湖遗产的各类因素均在动态变化，因此，本文认为对于西湖遗产影响评估，应真真切切地体现在理性、全面、动态及持续的理念和行动上。（全文完）

【注释】

注1：杭州有2处遗产（均为文化遗产）进入世界遗产名录：西湖文化景观 于2010年6月24日列入，中国大运河 于2014年6月22日列入。

注2：截止2015年，中国已有世界遗产项目48项，仅有 西湖文化景观 向公众永久免费开放。

注3：据国家文物局网站信息，列入世界遗产的西湖文化景观遗产区面积43.3平方公里，其中申报批准的核心区面积33.2288平方公里。

注4：据《杭州统计年鉴》，杭州城市快速发展：1996年至今，市区由5区扩为9区，建成区551平方公里，其中主城区由5区扩为6区，建成区由不足80平方公里扩大为327平方公里，城市建设对西湖遗产影响明显加剧。

注5：2010年7月13日，西湖列入世界遗产名录后不到一个月，杭州市即专门建立 西湖遗产监测管理中心，加强对西湖遗产的保护。2014年10月14日，浙江省机构编制委员会批复在浙江省文物考古研究所增挂 浙江省世界文化遗产监测中心 牌子，负责全省世界文化遗产监测管理。

注6：2007年2月16日，国务院正式批复《杭州市城市总体规划》（2001-2020）（国函2007-19号），其中对杭州历史文化名城保护提出了控制引导要求。另《杭州市历史文化名城保护规划》也于2003年批复实施，并不断修订完善。

插图（照）目录

图1-- 杭州西湖1

图2-- 杭州西湖2

图3-- 壹元人民币纸币图案

图4-- 西湖十景 - 断桥残雪

图5-- 西湖十景 - 花港观鱼

图6-- 西湖十景 - 雷峰夕照

图7-- 西湖十景 - 柳浪闻莺

图8-- 西湖十景 - 南屏晚钟

图9-- 西湖十景 - 平湖秋月

图10-- 西湖十景 - 曲院风荷

图11-- 西湖十景 - 三潭印月

图12-- 西湖十景 - 双峰插云

图13-- 西湖十景 - 苏堤春晓

图14-- 西湖世界遗产标志

图15-- 中国大运河 - 杭州段

图16-- 杭州西溪湿地

图17-- 杭州市区与西湖影像

图18-- 夕阳下的西湖游人

图19-- 景区古迹 - 岳庙

图20-- 百姓的西湖

图21-- 柳浪闻莺的 世界遗产标志

图22-- 西湖遗产区划1

图23-- 西湖遗产区划2

图24-- 西湖湖光山色

图25-- 西湖孤山 - 西泠印社

图26-- 西湖 - 八卦田

图27-- 西湖 - 灵隐寺

图28-- 西湖孤山 - 清行宫遗址

图29-- 钱王祠 - 元宵钱王祭

图30-- 西湖博物馆

图31-- 景区建设 - 中国茶叶博物馆

图32-- 景区维护 - 平湖秋月碑亭

图33-- 西湖核心景区

图34-- 西湖环湖建设

图35-- 西湖人满为患

图36-- 西湖断桥与城市高楼

图37-- 西湖与城市夜景

图38-- 西湖马拉松